

JACLaP WIRE No.73 (2004年8月2日発行)

本メールは日本臨床検査専門医会の電子メール新聞 JACLaP WIRE No.73 です。

===== 目次 =====

- 【お知らせ-1】会員動向(2004年7月27日現在数 677名, 専門医 464名)
- 【お知らせ-2】健康と医療フォーラム「か・ら・だ博」について
- 【お知らせ-3】平成16年度会費納入、および所属、連絡先などの変更について
- 【お知らせ-4】E-mail addressの変更について
- 【最新トピックス-1】米国で臓器提供者から狂犬病が感染し移植手術を受けた3人が死亡
- 【MTJ (The Medical & Test Journal) 6月21日号から】
- 【MTJ (The Medical & Test Journal) 7月1日号から】
- 【MTJ (The Medical & Test Journal) 7月11日号から】

===== JACLaP WIRE =====

【お知らせ-1】

会員動向(2004年7月27日現在数 677名, 専門医 464名)

所属変更会員

- 山崎滋孝先生：旧 順天堂大学浦安病院 病理
新 東京臨海病院 病理
- 小方則夫先生：旧 富山医科薬科大学 臨床検査医学
新 労働者健康福祉機構燕労災病院 副院長
- 佐藤 猛先生：旧 館山病院内科
新 医療法人光洋会 三芳病院

退会会員

- 加藤美由紀先生：東京慈恵会医大病理学講座

訃報

- 町田勝彦先生：平成16年7月29日、ご逝去

===== JACLaP WIRE =====

【お知らせ-2】健康と医療フォーラム「か・ら・だ博」について

日時：2004年8月3日(火)～8日(日)

場所：東京ビックサイト 西ホール

入場：無料

主催：日本経済新聞社・NHK

協賛：日本臨床検査専門医会・他

「か・ら・だ博」の期間中に、一般の入場者に対し臨床検査体験パビリオンが開設されます。日本臨床検査専門医会と日本臨床検査医学会で協賛することになりました。

日本臨床検査専門医会を広報する良い機会です。ご協力・ご参加をお願い致します。

か・ら・だ博ホームページ <http://karada-haku.jp/>

(獨協医科大学越谷病院臨床検査部教授 森 三樹雄)

===== JACLaP WIRE =====

【お知らせ-3】平成16年度会費納入および所属、連絡先などの変更について
未納の先生方は、本年度会費のお支払いをお願い致します。なお、本年度からは住所、氏名を入れてお届けしています。所属、住所、その他の変更がございましたら振り込み時に通信欄にご記入ください。

===== JACLaP WIRE =====

【お知らせ-4】E-mail addressの変更について
E-mail addressの変更があった場合は事務局にE-mailでお知らせください。
お知らせ頂かないとJACLaP WIREの配信ができなくなります。よろしくお願い致します。

===== JACLaP WIRE =====

【最新トピックス-1】米国で臓器提供者から狂犬病が感染し移植手術を受けた3人が死亡

CDC(米疾病対策センター)の報告(2004年7月1日)によれば、狂犬病に感染したドナー(臓器提供者)から移植手術を受けた患者3人が狂犬病で相次いで死亡した。解剖で狂犬病感染が確認されたが、死亡当時のドナーには狂犬病の症状はみられていない。テキサス州の病院で脳死と判定された男性の肺、腎臓、肝臓が摘出され、2004年5月4日に4人の待機患者に移植が行われた。1人は移植手術中に死亡したが、6月7日から21日にかけて移植された3人の患者が相次いで狂犬病で死亡した。CDCによると、狂犬病はドナーの適合検査項目(エイズ、B型肝炎、C型肝炎などのウイルス)には含まれていない。臓器移植で狂犬病の感染例は米国では報告されていない。ドナーの感染は移植前にはわかっておらず、CDCは対応に苦慮している。

狂犬病の潜伏期間は平均1か月位であるが、数年の場合も報告されている。犬だけでなく、狂犬病ウイルスに感染したキツネやコウモリなどと濃厚な接触があれば、

ヒトにも狂犬病は感染する。ヒトが狂犬病に感染すると、治療はなく全身麻痺をおこし死亡する。WHO の報告によると、狂犬病は世界 116 か国で発生し、死亡者数は 4~7 万人と推定されている。

(獨協医科大学越谷病院臨床検査部 教授 森 三樹雄)

===== JACLaP WIRE =====

【M T J (The Medical & Test Journal) 6月21日号から】

日本呼吸器学会 / 「呼吸機能検査ガイドライン」を7月に策定

人口の高齢化によりCOPD(肺気腫、慢性気管支炎)患者が増加するなど疾病構造の変化に対応するため日本呼吸器学会は、呼吸機能検査ガイドラインの策定作業を進めていることを明らかにした。同学会が検査関連のガイドラインを検討したのは、今回が初めてで、7月中にも完成させたい意向だ。

衆院厚労委 結核予防法案を全会一致で可決

衆院厚生労働委員会(衛藤晟一委員長)は6月11日、参院先議の結核予防法改正案などの採決を行い、基盤研法案は共産党を除く与野党の賛成多数で、結核予防法案と薬剤師法改正案は全会一致で可決した。3法案とも附帯決議が採択された。

薬剤師法改正案 薬剤師国試の受験資格で経過措置も

薬剤師法改正案は、薬剤師国家試験の受験資格を6年間の薬学の学部教育を修了した者に見直す。施行期日は06年4月1日。ただ、経過措置期間も設け、06年4月から17年4月までの12年間に入学した場合は、「新4年制課程を修了し、修士課程を修了している者」にも一定の条件下で資格を与える。附帯決議では、病院や薬局などでの実務実習の受け入れ体制の確保や、実習を指導する「指導薬剤師」の養成、新制度移行前の4年制の薬学教育で薬剤師となった人に対する実務研修の充実・改善を求めた。

鹿児島大学病院 7月から「IC支援システム」を本格稼働

鹿児島大学医学部・歯学部附属病院(田中信行院長、660床)は、7月から本格稼働させる「インフォームドコンセント支援システム」に、新たに入院診療計画書での推定入院期間よりも大幅に延長した症例に対して、その要因をさぐり問題解決につなげるため「バリエーション情報」の集積を開始する。

BML タブレットPC型電子カルテシステムを開発

ビー・エム・エルは、このほど手書きや音声入力に優れ、持ち運びにも便利な電子カルテシステムを開発した。タブレットPCというノート型コンピュータを使用したシステムで、8月から同社の診療所向け電子カルテシステム「メディカルステーション-クリニック」のオプションとして導入される予定。

ニッターボーメディカル 栄養アセスメント蛋白4項目を汎用機で測定

ニッターボーメディカルはこのほど、栄養アセスメント蛋白としてレチノール結合蛋白(RBP)測定試薬を発売、これによって栄養アセスメント蛋白は、すでに発売しているアルブミン、プレアルブミン(トランスサイレチン)、トランスフェリンと合わせて4項目となった。

【MTJ (The Medical & Test Journal) 7月1日号から】

厚生省が検討会 医療機関の個人情報保護でガイドラインを作成へ

厚生労働省医政局は6月23日、医薬食品局、老健局、保険局と共同で「医療機関等における個人情報保護のあり方に関する検討会」(座長=樋口範雄・東京大学大学院法学政治学研究科教授)の初会合を開き、医療機関の個人情報の取り扱いに関するガイドライン(GL)の策定に向けて検討を開始した。個人情報保護法の附帯決議を受けて個別法制定の必要性についても議論する。

6月28日の官報告示 04年度DPC試行は62病院

04年度のDPC試行は、全部で62病院で実施されることが6月28日の官報で告示された。すでに4月に51病院が官報告示され、28日に最終の11病院が告示されたもの。今回の官報告示で新たに告示された病院は、社会保険中央総合病院、医療法人禎心会病院、医療法人新日鐵室蘭総合病院、医療法人筑波記念会筑波記念病院、医療法人社団輝城会沼田脳神経外科循環器科病院、洛和会音羽病院、埼玉協同病院、東京医療生活協同組合中野総合病院、社会福祉法人聖隷福祉事業団総合病院聖隷浜松病院、財団法人操風会岡山旭東病院、株式会社麻生飯塚病院の11施設。

安全対策で日赤本社が改革案 10月から血液事業を事業本部制に移行

血液事業の安全対策を検討してきた日本赤十字社（藤森昭一社長）は25日、今年10月から血液事業について事業本部制を導入、血液事業の運営のあり方を検討する「血液事業経営会議」を設置することなどを柱とした「実施体制」を公表した。

栄研化学 簡便、高感度で検出する新型マイクロチップ技術開発

栄研化学は6月21日、遺伝子を簡便に高感度で検出する新型マイクロチップ技術を開発したと発表した。同社が徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部（馬場嘉信教授）と共同開発したもので、23fg/μL（fg=フェムトグラムは1000兆分の1グラム）の極微量遺伝子を15分以内に増幅から解析まで行えるのが特徴。

カイノス マイクロプレートによる輸血検査装置を発売

カイノスは、完全ウォークアウェイ対応の輸血検査用全自動装置「Immucor Gamma GALILEO」を7月1日から発売した。米国ImmucorGamma社製。新製品は、マイクロプレートを利用して血液型判定、抗体スクリーニング、抗体の同定など輸血関連のルーチン検査を行う。

【MTJ（The Medical & Test Journal）7月11日号から】

日医・青木常任理事 日医総研の見直しで外部調査事業も再考

日本医師会が日医総研のあり方を大幅に見直す方針を打ち出したことをうけ、早ければ今秋にもスタートする予定だった日医総研（当面の受け皿）日本臨床衛生検査技師会、日本衛生検査所協会による外部精度管理調査などの一元化事業は実施内容を大幅に見直すことが、7月3日、都内で開かれた全国医師会共同利用施設施設長・検査技師長連絡協議会で明らかになった。

厚生労働省 ウエストナイルウイルス対策で帰国者の採血禁止期間を延長へ

厚生労働省医薬食品局血液対策課は、ウエストナイルウイルス等の輸入感染症対策として、海外からの全帰国者の採血禁止期間を、従来の帰国後3週間から4週間に延長する方針だ。ウエストナイルウイルスは、低ウイルス量でも感染する報告が出てき

ており、これまで考えられていたウイルス血症期間がさらに長くなる可能性があるといわれている。このため、国立感染症研究所から、採血禁止期間を「北米から帰国後4週間」とする提案が出されていた。

(原文 <http://www.mhlw.go.jp/shingi/2004/07/s0702-4d.html>)

=====

JACLaP WIRE, No.73 (2004年8月2日発行)

発行：日本臨床検査専門医会 [情報・出版委員会]

編集：JACLaP WIRE 編集室 編集主幹：満田年宏

記事・購読(配信)・広告等に関するお問い合わせ先：

〒236-0004 横浜市金沢区福浦 3-9

横浜市立大学医学部臨床検査部医局内

E-mail：jaclap_wire@yahoo.co.jp

TEL:045-787-2721 FAX:045-786-0392

日本臨床検査専門医会ホームページ：<http://www.jaclap.org/>

JACLaP WIRE バックナンバー：

<http://www.jaclap.org/wire/index.html#TOP>

会員の皆様からの寄稿をお待ちしております！

メーリングリスト配信先の変更には

氏名, 2. 現行登録アドレスと 3. 変更希望メールアドレスを添えて

jaclap_wire@yahoo.co.jpまで「配信先の変更希望」としてお送り下さい。
